

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	栃木県
推進地域名	栃木市

1 事業推進の体制

実践中心校	栃木市立栃木中央小学校、県立足利中央特別支援学校
協力校	栃木市立吹上小学校、栃木市立大平西小学校、栃木市立藤岡小学校、栃木市立家中小学校、栃木市立西方小学校、県立富屋特別支援学校、県立益子特別支援学校、県立南那須特別支援学校
関係機関	栃木市大平学校給食センター

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

<ul style="list-style-type: none">各教科、特別活動等における食に関する指導の実践事例集を作成し、広く県内の小中学校及び特別支援学校等に配布することで、学校における食育のより一層の推進を図る。また、中核となって推進する栄養教諭の取組を支援する。児童生徒の発達の段階に応じた給食の時間における食に関する指導の評価規準（身に付けさせたい資質・能力）を作成し、給食の時間における食に関する指導を実践する際の参考とする。

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

<ol style="list-style-type: none">検討委員会及び食育ワーキンググループ会議の企画・運営食生活アンケート調査の実施及び分析各教科等及び給食時間の指導内容について指導・助言

3 具体的な取組等について

テーマ1	心身ともに健康な子どもをはぐくむ食に関する指導の実践
評価指標	食生活アンケート調査の実施
効果	食生活アンケート調査の結果から、食に関する知識が向上し、児童の意識の変容がうかがえる。また、それに伴い、行動変容もみられるため、実践し始めてきていると考えられる。

(取組状況)

- 第1回食生活アンケート調査の結果から、取組テーマを設定
- 検討委員会及び食育ワーキンググループ会議において、重点とする指導内容の検討及び教材となる給食献立内容、給食時間における指導内容の検討
- 実践中心校及び協力校での実践

【実践事例1】

小学校第1学年 学級活動 題材名「元気になるための食事」

好き嫌いなく食べようとする実践力の向上を図るため、教材を開発し、その活用を工夫した授業を実践した。栄養教諭が食べることの大切さについて話をする事により、児童が自分自身の食生活を振り返り、めあてを立てることができた。また、給食時間における振り返りを通して、実践に向けての意欲の向上を図ることができた。

【実践事例2】

小学校第2学年 国語科 単元名「秋の一日」

児童の生活体験をもとに、秋を表す言葉を集める授業を実施した。栄養教諭が秋に旬を迎える食べ物について提示することにより、児童が旬の食べ物に興味をもち、秋の食べ物から言葉のイメージを広げることができた。また、学校給食で秋に旬を迎える食べ物を使用することにより、苦手なものでも食べてみようとする実践力が向上した。

【実践事例3】

小学校第3学年 体育科 単元名「毎日の生活と健康」

養護教諭や栄養教諭が各専門性を生かした指導をすることにより、児童が自分の生活を見

直し、改善していくためのめあてを考える授業を実施した。具体的な事例を基に健康によい生活について自己を振り返り、食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活の大切さについて理解を深めることができた。また、朝食摂取の大切さについて、学校給食を通して理解が深まった。

【実践事例4】

特別支援学校第2学年 生活単元学習 単元名「秋を探そう」

栄養教諭が給食に使われている秋に旬を迎える食べ物を紹介することにより、児童の興味・関心が高まり意欲的に学習に取り組むことができた。また、給食時間の振り返りカードで家庭と連携を図ることで、給食や家での食事をとおして身近な秋を感じ楽しむことができた。

【実践事例5】

特別支援学校第6学年 生活単元学習 単元名「修学旅行に行こう」

栄養教諭から、好き嫌いなくいろいろな食べ物を食べることで健康な体がつくられることを聞き、児童は自分自身の食べ方について考えることができた。給食時には、授業内容と関連させ栄養教諭が給食の栄養について話をしたことで、何でも食べようと実践している様子がみられた。

- 4 実践をもとに指導案等の修正
- 5 第2回食生活アンケート調査の実施
- 6 第3回検討委員会において、事業の成果等の検証
- 7 実践事例集の配布及び周知



テーマ2	心身ともに健康な子どもをはぐくむ給食時間における食に関する指導の評価規準 (身に付けさせたい資質・能力)
------	---

効果	次年度以降、検証を行う。
----	--------------

(取組状況)

- 1 検討委員会及び食育ワーキンググループ会議において、項立てや評価の観点等の検討
- 2 検討委員会及び食育ワーキンググループ会議において、身に付けさせたい資質・能力の検討
- 3 第3回検討委員会において確認及び修正
- 4 次年度以降、実践推進地域において検証

学校給食の時間における食に関する指導の評価規準(身に付けさせたい資質・能力)		活動別形態の評価規準		
小学校低学年				
食に関する指導の目標	指導のねらい	活動別形態の評価規準		
		集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
食事の重要性	食べ物に興味・関心を持ち、みんなと楽しく食事をしようとしている。	給食に使われている食べ物に興味・関心を持ち、みんなと楽しく食事をしようとしている。	友達と会話を楽しみながら、食事を摂ろうとしている。	食べ物には、命があることを理解している。
心身の健康	正しい手洗いを実践しようとしている。	衛生面や安全面に留意して、食事を摂ろうとしている。	食事前の正しい手洗いを実践している。	正しい手洗いの仕方を理解している。
食品を選択する能力	いろいろな食べ物の名前を知ろうとしている。	給食で使われている食べ物の名前を知ろうとしている。	給食で使われている食べ物の名前を確認しながら、食事を摂っている。	給食で使われている食品の名前を理解している。
感謝の心	食に関して感謝の気持ちを表現しようとしている。	食事を作ってくれる人の努力を知ろうとしている。	食事前後のあいさつを心を入れて実践している。	「いただきます」と「ごちそうさま」の意味を理解している。
社会性	食事の基礎的なマナーを身に付けようとしている。	食事マナーに興味を持ち、基礎的なマナーを身に付けようとしている。	正しく食器を並べ、正しい箸の使い方です食事を摂ろうとしている。	正しい食器の並べ方や正しい箸の使い方を理解している。
食文化	季節や行事、地域の産物にちなんだ料理があることを知ろうとしている。	季節や行事、地域の産物にちなんだ料理について知ろうとしている。	地域の産物に興味を持ち、日常の食事と関連付けて考えようとしている。	季節や行事にちなんだ料理があることを理解している。

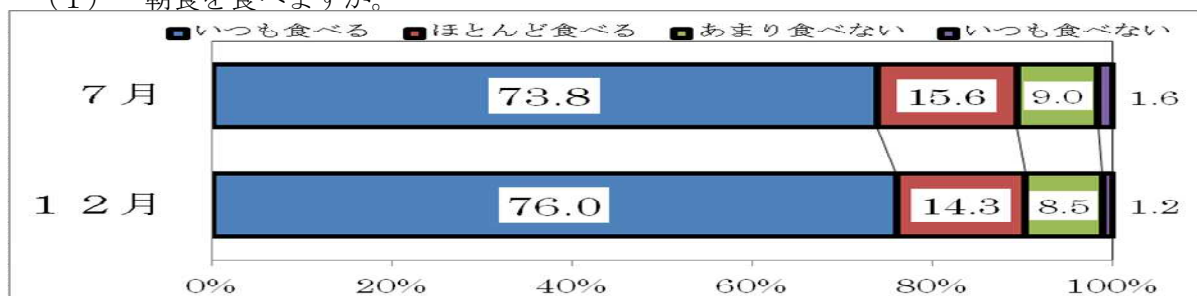
学校給食の時間における食に関する指導の評価規準(身に付けさせたい資質・能力)				
小学校中学年				
食に関する指導の目標	指導のねらい	活動別形態の評価規準		
		集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
食事の重要性	生活リズムを整え、3食規則正しく食事を摂る大切さが分かる。 楽しく食事をすることが心身の健康に大切なことが分かる。	生活リズムを整え、3食規則正しい食事を楽しく摂ろうとしている。	生活リズムを整え、3食規則正しく食事を摂ることができる。	3食規則正しく食事を摂ることの大切さを理解している。 楽しく食事をすることが心身の健康に大切なことを理解している。
心身の健康	よく噛んで食べることができる。 いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べようとしている。	健康に過ごすことを意識して、食事を摂ろうとしている。	よく噛んで食べることができる。 いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べようとしている。	よく噛んで食べることの大切さを理解している。 いろいろな食べ物を好き嫌いせずに食べることが、健康につながることを理解している。
食品を選択する能力	いろいろな料理の名前を知ろうとしている。 衛生的に給食準備や食事、後片付けができる。	いろいろな料理の名前を知ろうとしている。 衛生的に給食準備や食事、後片付けをしようとしている。	衛生的に給食準備や食事、後片付けができる。	衛生的に給食準備や食事、後片付けをすることの大切さを理解している。
感謝の心	調理や生産に携わっている方に感謝して食べることができる。	給食の調理や生産に携わる方等に感謝の気持ちをもって、食事をしようとしている。	感謝の気持ちをもって食事を摂ることができる。	食事は多くの人々の努力があって作られていることを理解している。
社会性	食事マナーを考えて、会話を工夫しながら楽しく食事ができる。	食事マナーを考えて、会話を工夫しながら楽しく食事をしようとしている。	正しく食器を並べ、正しい箸の使い方ですべて食事を摂ることができる。 会話を工夫しながら楽しく食事ができる	食事の際にふさわしい会話について理解している。
食文化	地域の産物に興味をもち、日常の食事と関連付けて考えることができる。	季節や行事、地域の産物にちなんだ料理について知ろうとしている。	地域の産物に興味をもち、日常の食事と関連付けて考えることができる。	自分の住んでいる身近な土地でとれた食べ物を理解している。

4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

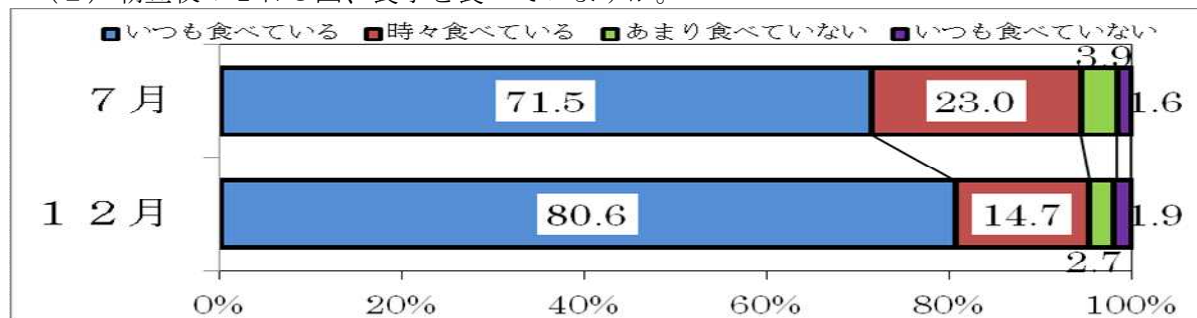
食生活アンケート調査の結果

1 栃木市立栃木中央小学校1～3年生(256人)調べ

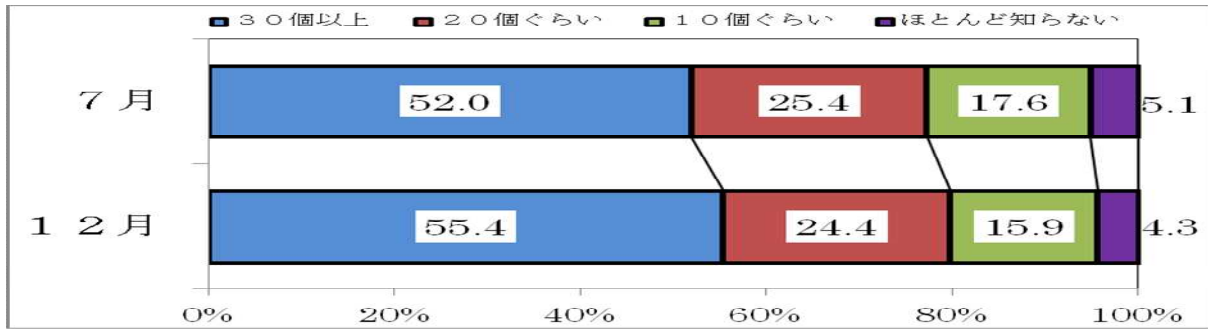
(1) 朝食を食べますか。



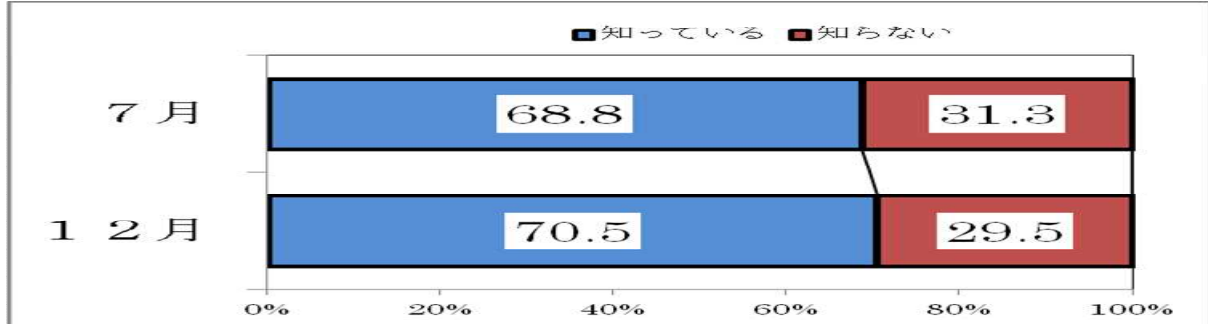
(2) 朝昼夜の1日3回、食事を食べていますか。



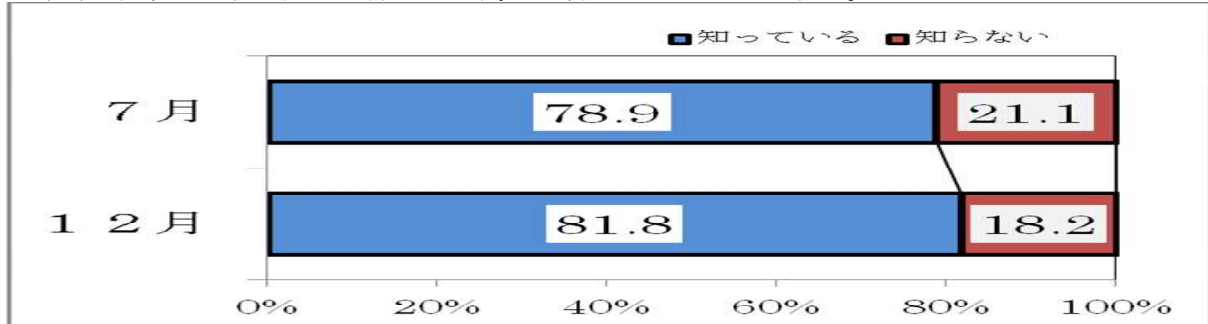
(3) 食べ物の名前をいくつぐらい言えますか。



(4) 自分の地域で作られている食べ物を知っていますか。



(5) 季節や日本の行事に合わせて食べる料理を知っていますか。



(6) 学校給食が好きですか。

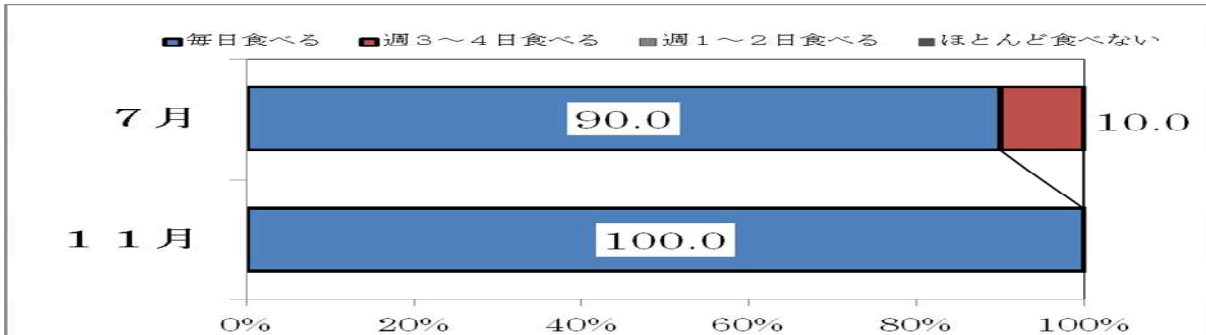


【成果】

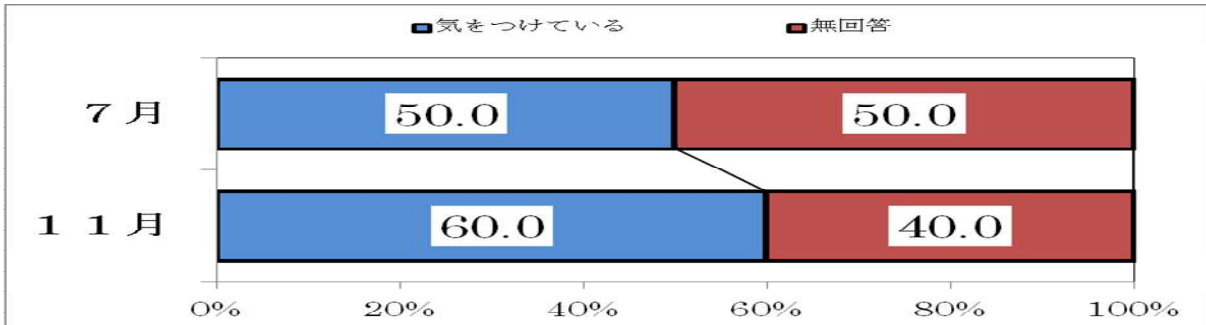
- 1回目の調査に比べ半分以上の項目で、肯定的な回答をする児童が増加し、否定的な回答をする児童が減少している。
- 朝食を毎日食べている児童が増加し、あまり食べない、いつも食べないと回答した児童が減少している。
- 食に関する知識が向上し、児童の意識の変容がうかがえる。また、それに伴い、行動変容もみられるため、実践し始めてきていると考えられる。
- 学校給食が好きと回答した児童が増加し、あまり好きではない、嫌いと回答した児童が減少している。

2 県立足利中央特別支援学校6年生（10人）調べ

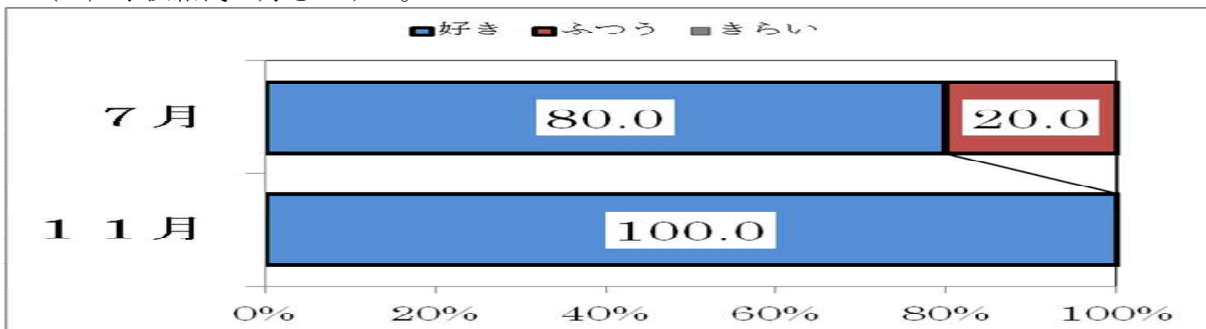
(1) 朝食を食べますか。



(2) 好ききらいしないように、気をつけていますか。



(3) 学校給食が好きですか。



【成果】

- 朝食を毎日食べている児童が100%となった。
- 好ききらいしないよう気をつけている児童が増加した。
- 学校給食が好きと回答した児童が100%となった。
- 学校給食が好き、好ききらいしないように気をつけると回答する児童が増加するなど、給食の時間を楽しみにしており、がんばって食べようとする意識の変容がうかがえる。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- ・平成26年度栄養教諭・学校栄養職員等研修会で実践発表を予定しており、実践事例集の活用について広く県内へ周知する。
- ・平成27年度の同研修会において、実践事例集をもとに実施した授業の成果や課題等について研究協議を行い、栄養教諭の指導力向上を図る。

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・指導案は、栃木市と県立足利中央特別支援学校の実態をもとに作成したため、他校で活用する場合は自校化を図る必要がある。
- ・実践中心校の実態から、食育の6つの観点のうち「心身の健康」を中心に指導案を作成したため、今後は他の観点から指導案を作成し、さらなる指導の充実を図る必要がある。
- ・子どもの食生活や食習慣については家庭教育が中心となって担う部分が多いことから、学校の教育活動に加え、継続して家庭への啓発を図る必要がある。